

地域危険度および武蔵野地域 に関する現状・課題データ集 (改訂版)防災への意見

H25年7月5日
外環地上部街路に関する話し合いの会 構成員
吉祥寺南町3丁目 黒木泰二郎

あなたのまちの
地域危険度

平成20年
2008

District-based Assessment of Vulnerability to Earthquake Disaster

地震に関する地域危険度測定調査 (第6回)
The Sixth Survey of District-based Vulnerability to Earthquake Disaster



2

地域危険度とは

What is District-based Vulnerability?

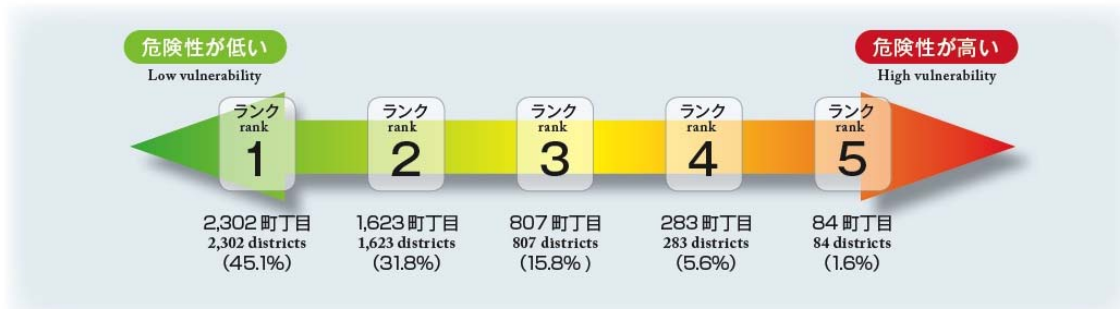


本調査では、地震の揺れによる以下の3つの危険性を町丁目ごとに測定しています。

- 建物倒壊危険度（建物倒壊の危険性）
- 火災危険度（火災の発生による延焼の危険性）
- 総合危険度（建物倒壊や延焼の危険性）

なお、地域危険度はそれぞれの危険度について、町丁目ごとの危険性の度合いを5つのランクに分けて、以下のように相対的に評価しています。

The degree of district-based vulnerability with regard to respective vulnerabilities measured for each district is relatively rated as shown below, on a scale of 1 to 5.



(注) 危険度のランクは相対評価のため、安全性が向上していても、他の町丁目の安全性がさらに向上している場合には、危険な方向にランクが変化している場合があります。
(Note) Since the rankings for vulnerability are relatively rated, even if safety is improved in one district, its ranking may change towards a direction of higher vulnerability if safety in other districts has also improved.

5

まちの総合的な危険度 ～総合危険度～

Integrated Vulnerability of Communities

— Integrated Vulnerability —



皆さんのまちの地震の危険性を分かりやすく示すために、地震の揺れによる建物倒壊や火災の危険性を1つの指標にまとめたものが「総合危険度」です。

防災都市づくりに最も活用される指標であるとともに、都民がまちづくりを考える際に、また日頃から地震に備える際に活用されることを想定しています。

総合危険度の測定方法

総合危険度は、町丁目ごとに、建物倒壊危険度と火災危険度の順位（1～5,099位）の数字を合算し、

その数値に基づき順位付けを行い、評価しました。

総合危険度の測定結果

総合危険度の高い地域は、建物倒壊危険度、火災危険度ともに高かった荒川・隅田川沿いのいわゆる下町地域一帯に分布しています。具体的には、足立区南部から荒川区、台東区東部、葛飾区西部、墨田区、

江東区北部に広がる地域で、また、品川区南西部や北区北部から豊島区北西部に広がる地域でも危険度が高くなっています。（P13 参照）

災害に強い都市を目指して

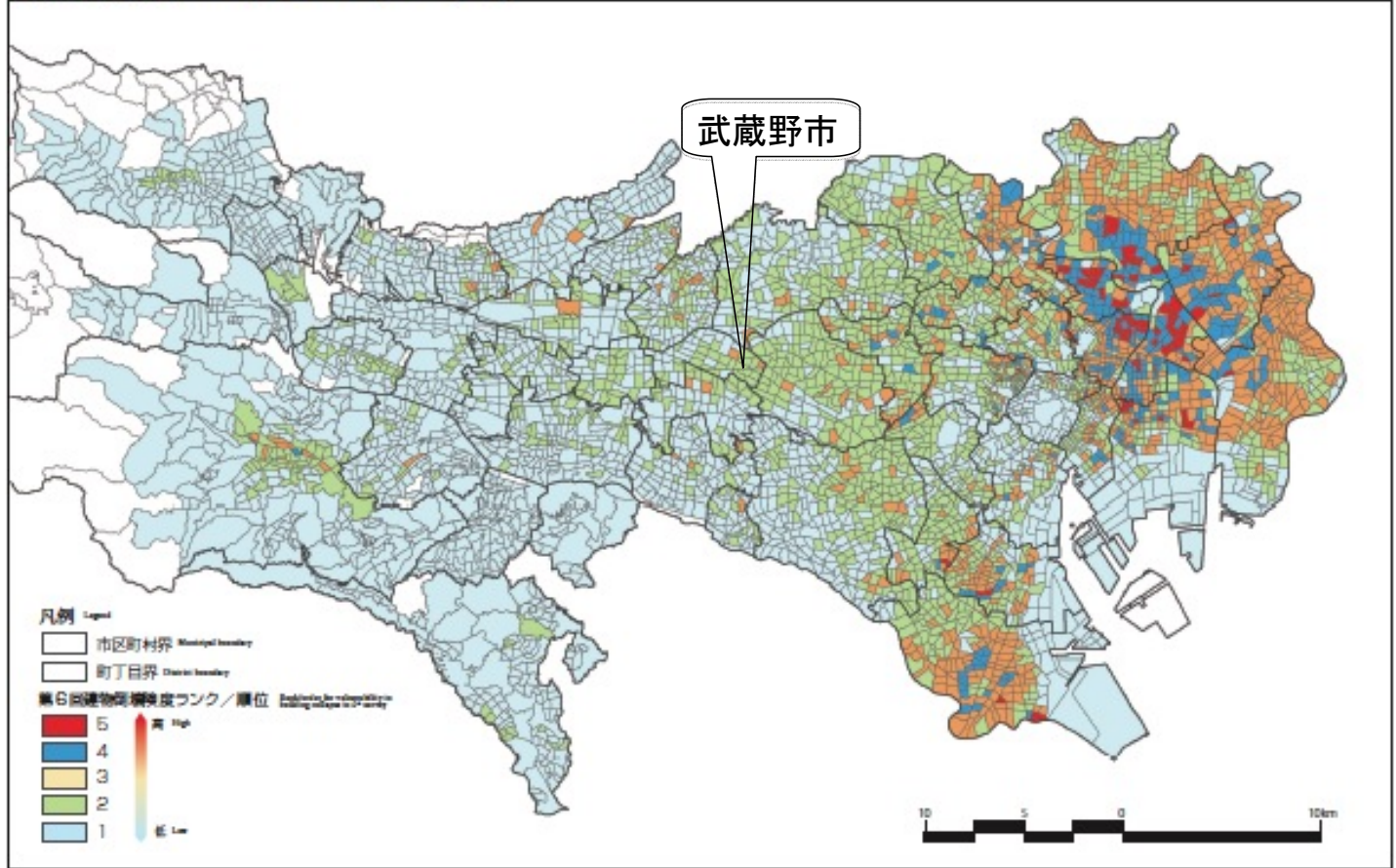
総合危険度の高い地域では、建物の建替えによる耐震性の向上や不燃化を図るとともに、道路、公園などの整備を進めるなど、周辺町丁目も含めて、様々な震災対策を重層的、総合的に進めていく必要があ

ります。

また、いつ起こるかも知れない地震に対しては、日頃からの十分な備えと対策が重要です。

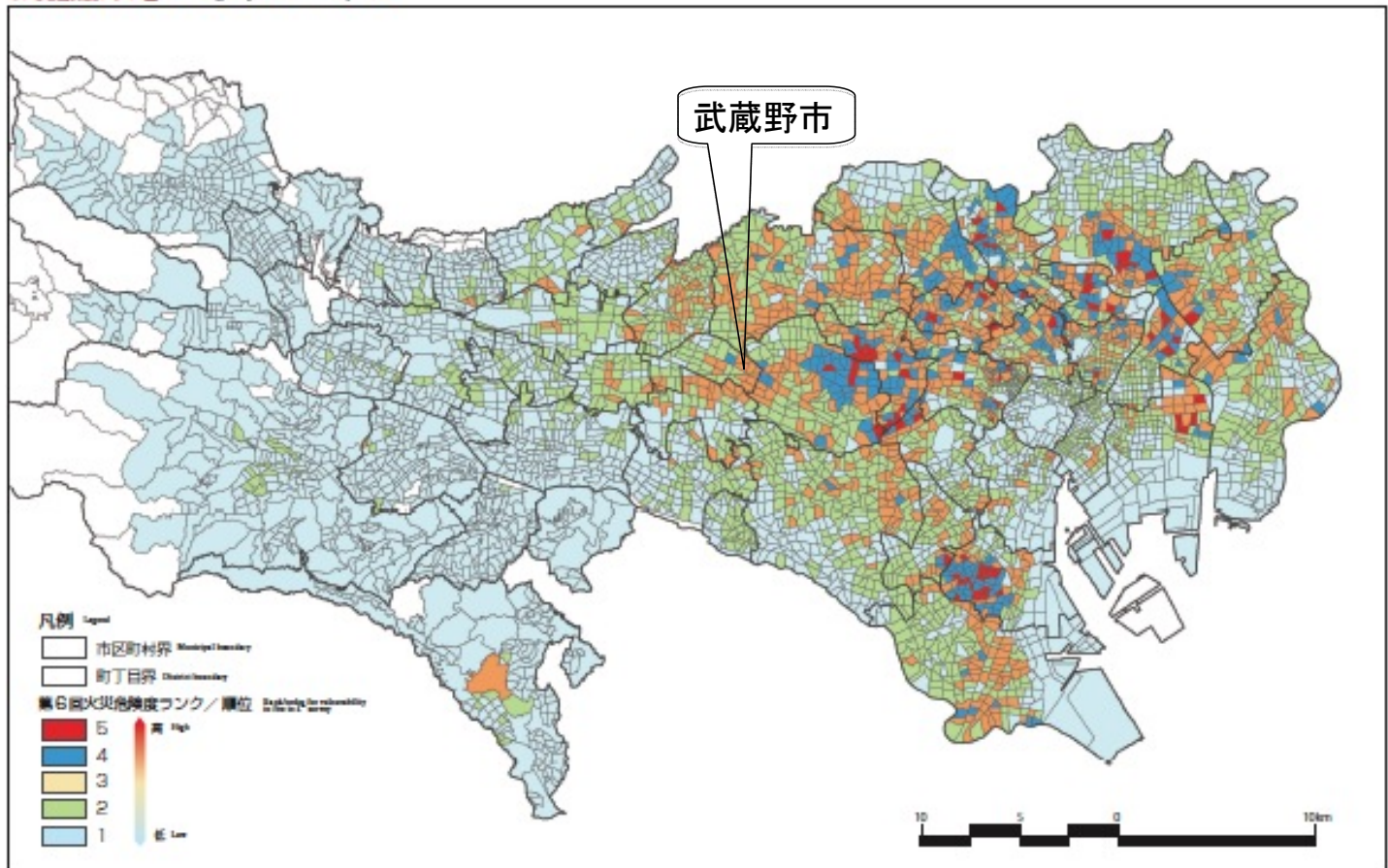
建物倒壊危険度ランク図

○建物倒壊危険度ランク図 Ranking Map of Vulnerability to Building Collapse



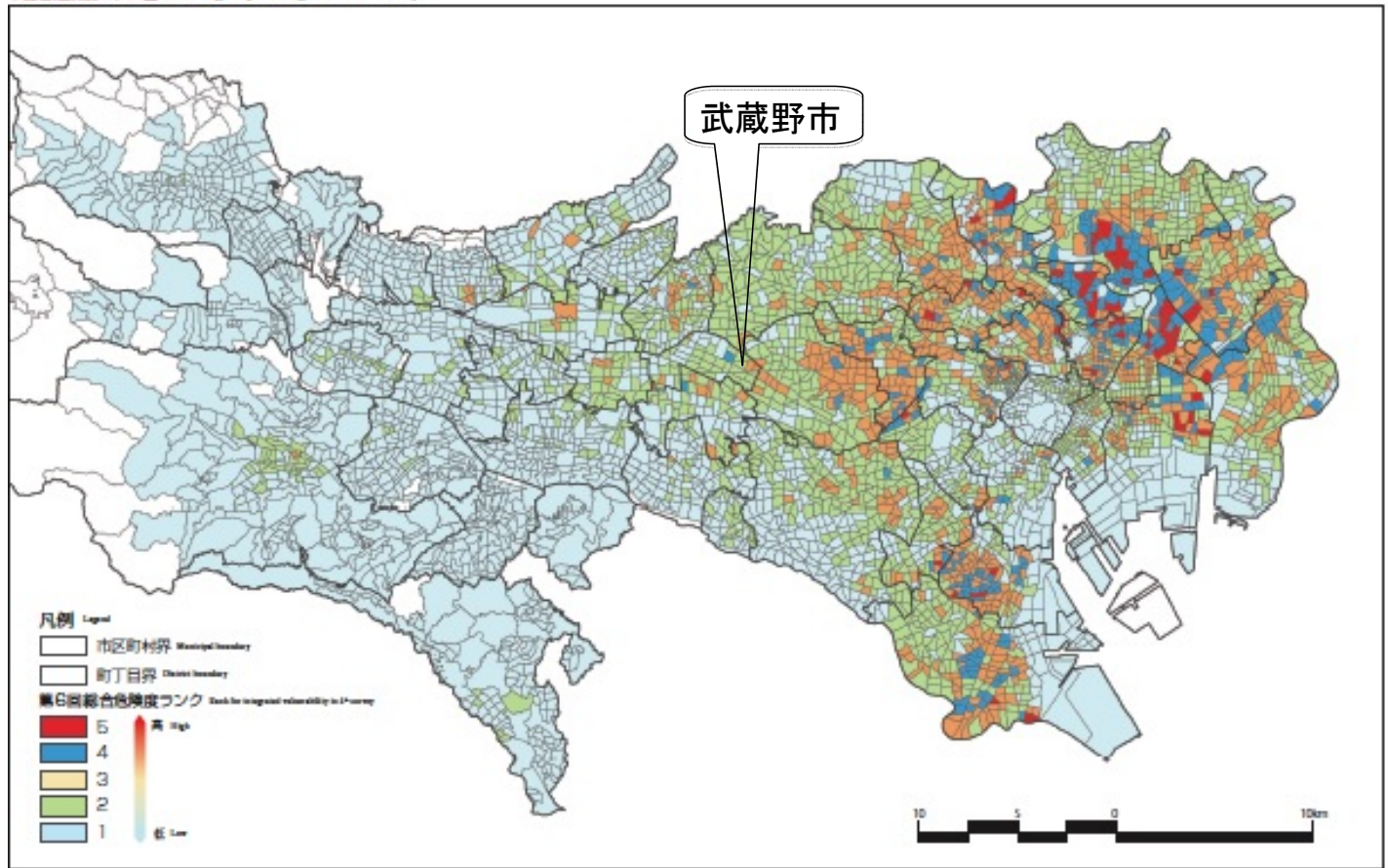
火災危険度ランク図

○火災危険度ランク図 Ranking Map of Vulnerability to Fire



総合危険度ランク図

○総合危険度ランク図 Ranking Map of Integrated Vulnerability



地域危険度一覧表：武蔵野市

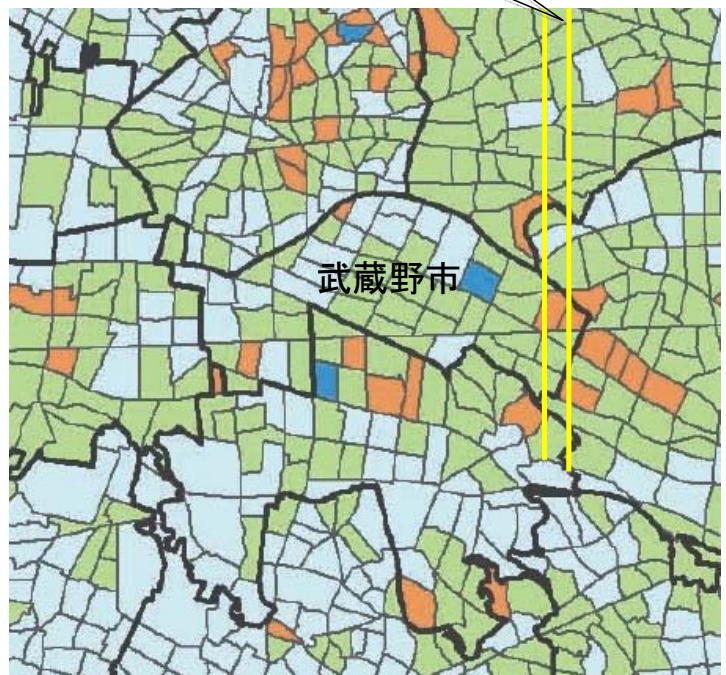
〔表中の凡例〕

建物倒壊危険度とは
 火災危険度とは
 総合危険度とは
 危険度が高いほうから順位付けしています。

町名	町丁目	建物倒壊危険度		火災危険度		総合危険度	
		ランク	順位	ランク	順位	ランク	順位
吉祥寺北町	1丁目	3	572	4	342	4	271
吉祥寺北町	2丁目	1	3111	2	1393	2	2341
吉祥寺北町	3丁目	1	3808	2	2310	1	3187
吉祥寺北町	4丁目	2	2775	2	1548	2	2237
吉祥寺北町	5丁目	1	3454	2	2018	1	2854
吉祥寺東町	1丁目	2	2251	3	977	2	1554
吉祥寺東町	2丁目	2	2060	3	588	2	1178
吉祥寺東町	3丁目	2	1859	3	429	3	962
吉祥寺東町	4丁目	3	791	3	666	3	510
吉祥寺本町	1丁目	2	2514	2	2039	2	2367
吉祥寺本町	2丁目	2	2558	2	1176	2	1863
吉祥寺本町	3丁目	2	2427	3	1161	2	1760
吉祥寺本町	4丁目	2	2340	3	701	2	1429
吉祥寺南町	1丁目	2	2673	2	1489	2	2127
吉祥寺南町	2丁目	2	2112	3	716	2	1292
吉祥寺南町	3丁目	2	2456	3	1084	2	1740
吉祥寺南町	4丁目	2	2084	3	704	2	1265
吉祥寺南町	5丁目	2	2187	3	571	2	1250

総合危険度ランク図拡大版

外かんの2



⇒外かんの2沿線地区 総合危険度**1145位(平均)**
 <危険度が低い地域だと言える>

●地域危険度のまとめ

東京都都市整備局が発行した地域危険度の資料を読む限り、武蔵野市は都内で地震への危険度が低いエリアで、防災面から外環の2が必要という主張は当たらないと思われます。(外かんの2沿線地区 総合危険度**1145位(平均)**で、それでも必要だと言うならこの地域と同レベルの安全な地域全てに対策が必要ということになる)

現在、首都圏直下型地震の発生が4年以内に70%という予測もあるなか、総合危険度の高い荒川・隅田川沿いの下町地域などへの防災対策が急務で予算優先度が高いはずであり、東京都は外環の2よりもそれらの対策に全力をあげるべき！

<補足>

関連する武蔵野地域に関する現状・課題データ集(改訂版)防災のページ(2-9、2-10)および武蔵野地域に関する必要性(整備効果)の防災のページ2-5への意見

<疑問>

●なぜ都市整備局の地域危険度データがあるのにわざわざ東京消防庁のデータを使う必要があるのか？

⇒こちらの方が危険度数値が高いからか？

●なぜ武蔵野地域に関する現状・課題なのに練馬、杉並、三鷹など広域地図が必要なのか？

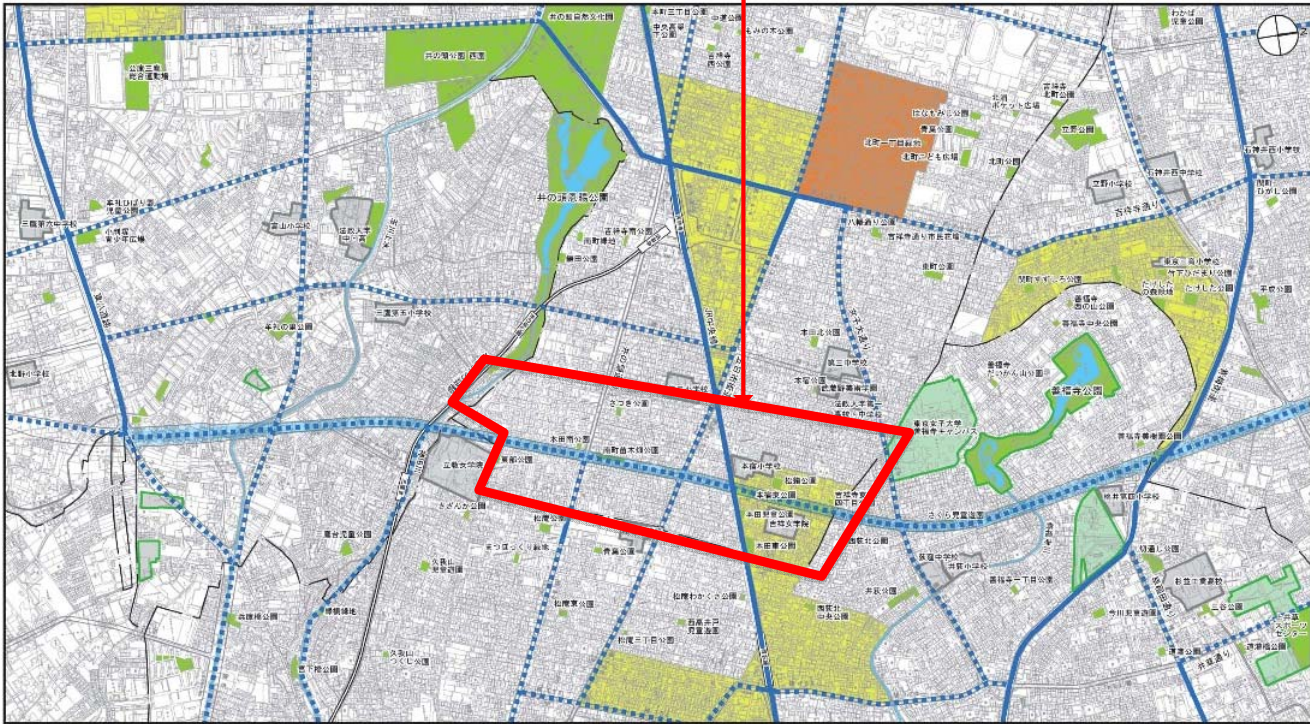
⇒広域で見せた方が危険性が高く見えるという作為的な意図を感じる

● 出火危険度(外環の2沿線地区)

武蔵野地域に関する現状・課題データ集(改訂版)防災の2-9より

防災 延焼遮断帯の形成状況と出火危険度

武蔵野地域の外環の2沿線周辺エリア



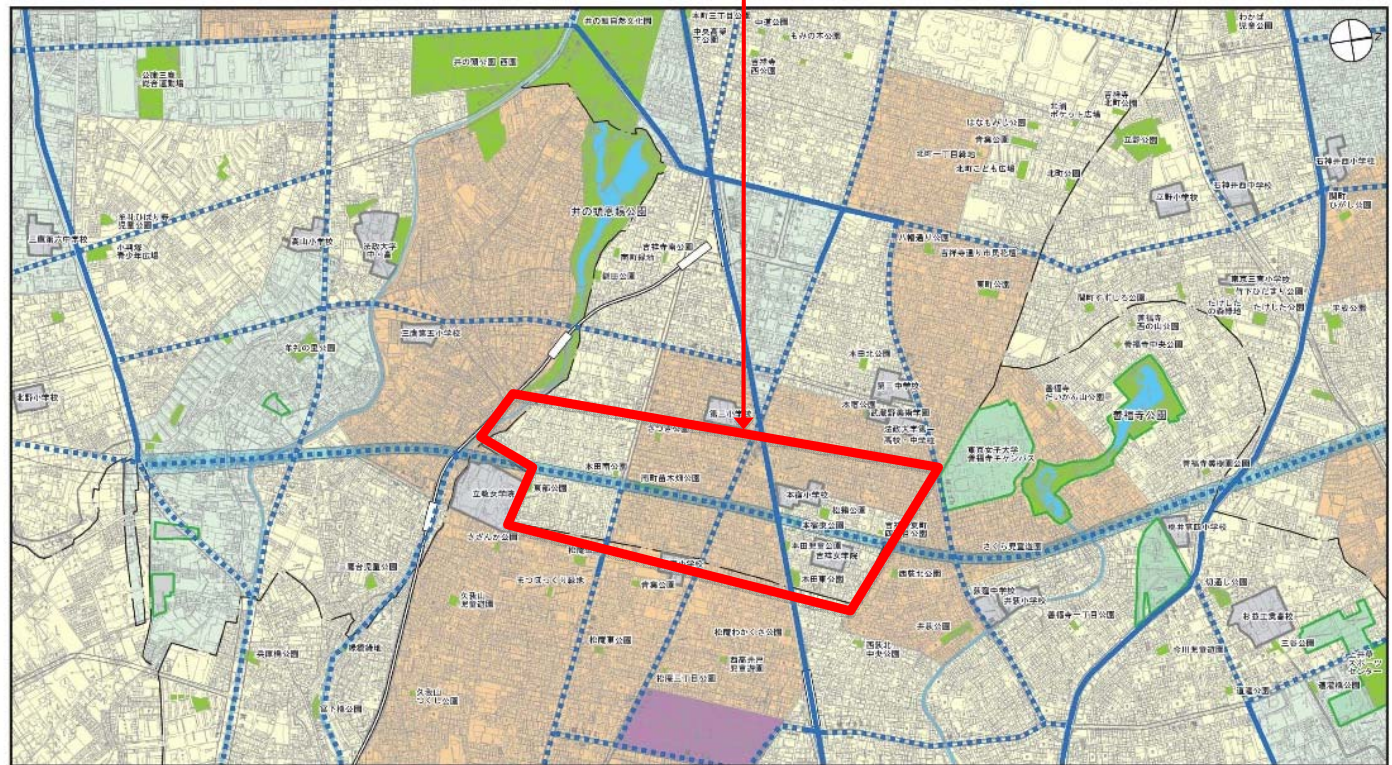
凡例
 ■本資料の平面図の注意点
 ・本図は都市計画上の権利制限の範囲、用地取得の区域を示すものではありません。
 ・本図に示している都市計画線は建築確認や土地取引等に伴う都市計画道路の境域確認に用いることはできません。
 ・本図の地形図は、航空写真に基づいて作成したものであり、多少の誤差や現在の建物の立地状況と合致していない点があります。

● 延焼危険度

武蔵野地域に関する現状・課題データ集(改訂版)防災の2-10より

防災 延焼遮断帯の形成状況と延焼危険度

武蔵野地域の外環の2沿線周辺エリア



凡例
 ■本資料の平面図の注意点
 ・本図は都市計画上の権利制限の範囲、用地取得の区域を示すものではありません。
 ・本図に示している都市計画線は建築確認や土地取引等に伴う都市計画道路の境域確認に用いることはできません。
 ・本図の地形図は、航空写真に基づいて作成したものであり、多少の誤差や現在の建物の立地状況と合致していない点があります。

<出火危険度と延焼危険度の比較>

●出火危険度(外かんの2沿線地区)



出火危険度が比較的高いのは東町3~4丁目(黄色台形のところ)

●延焼危険度(外かんの2沿線地区)



出火危険度が比較的高い東町3~4丁目は延焼危険度が低い(同じ台形のところ)

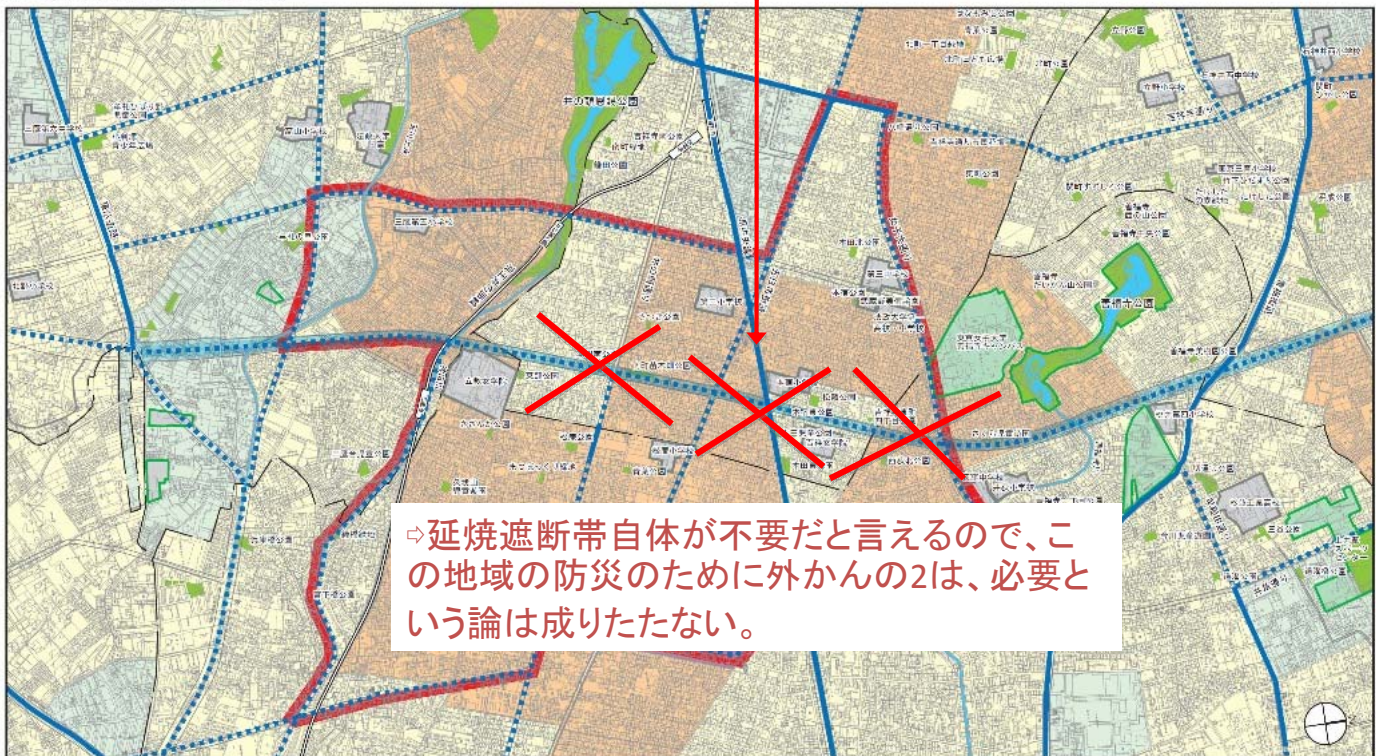
出火しやすい地区(東町3~4丁目)は、延焼しない。
延焼しやすい地区(南町4~5丁目)はそもそも出火しない

⇒東京都の言うこの地域は危険という見解は誤り。

武蔵野地域に関する必要性(整備効果)データ集(改訂版)防災の2-5より

防災
地域的な視点 延焼遮断帯の形成
延焼遮断帯の形成
■地上部街路における延焼遮断帯の形成

武蔵野地域の外環の2沿線周辺エリア



⇒延焼遮断帯自体が不要だと言えるので、この地域の防災のために外かんの2は、必要という論は成り立たない。

凡例 地上部街路 延焼遮断帯 延焼遮断帯(未形成の区間) 防災生活圏
延焼危険度ランク 8.9 6.7 4.5 2.3 (ランク2以上を表示) 高 ← → 低

<意見>

1.都市整備局はことさらに住民に危険を煽るような資料を作成するのはやめてほしい！

2.都市整備局はすべてが道路(ハード)さえあればすべてが解決するような言い方をするが、それは短絡的過ぎる。大震災時に津波で流された高さ10mの防波堤からもわかるようにハード対策には限界がある。そもそも大震災時は五日市街道は渋滞し、消防署(吉祥寺北町)から消防車や救急車は来ないのではないのか？

3.住民同士が日頃から関係を持ち、助け合う共助こそが災害時は重要！逆に外環の2ができると、コミュニティが分断、地域のつながりも破壊され、消防団など自主防災活動もさらに弱体化し、住民にとって危険度が増す。

<結論>

外かんの2(外環の地上部の街路)は住民にとってダメージの方が大きく、納得できるものではない。そのため武蔵野地域への外環の2の道路計画は白紙に戻してほしい。